

「障害の多様化に対応した職業リハビリテーションツールの効果的な活用に関する研究」 における利用者アンケートから

○田村 みつよ(障害者職業総合センター 研究員)

山科 正寿・武澤 友広・村久木 洋一・渋谷 友紀・國東 菜美野・知名 青子・

小池 磨美・井口 修一・田中 歩(障害者職業総合センター)

1 背景と目的

(1)TP開発の歴史 研究報告書レビュー

発行年	バックナンバー	タイトル	関連マニュアル等
平成15年度 (2004年3月)	調査研究報告書 No.57	「精神障害者等を中心とする職業リハビリテーション技法に関する総合的研究(最終報告書)」	
平成16年度 (2005年3月)	調査研究報告書 No.64	精神障害者等を中心とする職業リハビリテーション技法に関する総合的研究(活用編)	
リワーク導入 平成18年度 (2007年3月)	調査研究報告書 No.74	「事業主、家族等との連携による職業リハビリテーション技法に関する総合的研究」 (第1分冊事業主支援編)	『職場適応促進のためのトータルパッケージ ワークサンプル幕張版 実施マニュアル』—理論編、簡易版、訓練版(各9作業種別)
	調査研究報告書 No.75	(第2分冊関係機関等の連携による支援編)	『トータルパッケージの活用のために』ワークサンプル幕張版(MWS)とウイスコンシンカードソーティングテスト(WCST)幕張式を中心として
H19TPツールの市販化			
平成21年度 (2010年3月)	調査研究報告書 No.93	「特別の配慮を必要とする障害者を対象とした、就労支援機関等から事業所への移行段階における、就職・復職のための支援技法の開発に関する研究」	『ワークサンプル幕張版 MWS の活用のために』 『幕張ストレス・疲労アセスメントシート MSFASの活用のために』
平成24年度 (2013年3月)	資料シリーズ No.72	「障害の多様化に対応したワークサンプル幕張版(MWS)改訂に向けた基礎調査」	『トータルパッケージの活用のために(増補改訂版)』—ワークサンプル幕張版(MWS)とウイスコンシン・カードソーティングテスト(WCST)幕張式を中心として—
〃	調査研究報告書 No.115	「障害の多様化に応じたキャリア形成支援の在り方に関する研究」 (第一分冊アンケート編)	研修用DVD『職場適応促進のためのトータルパッケージの理解と活用のために』
H25 障害者総合支援法			
(第2分冊 ヒアリング調査編)			
(第3分冊キャリア形成支援モデル編)			
平成27年度 (2016年3月)	調査研究報告書 No.130	「障害の多様化に対応した職業リハビリテーション支援ツールの開発」—ワークサンプル幕張版(MWS)の既存課題の改訂・新規課題の開発—	
H28 精神障害雇用率算入			
平成30年度 (2019年3月)	調査研究報告書 No.145	「障害の多様化に対応した職業リハビリテーション支援ツールの開発(その2)」—ワークサンプル幕張版(MWS)新規課題の開発—	

(2) 本報告の目的

トータルパッケージ開発当初には想定されていなかった、支援対象者の多様化に伴う支援ニーズの高まりと、就労支援サービスを提供する諸機関の拡張

単に作業検査器具(ワークサンプル)としての活用に留まらず、各ツールを組み合わせた効果的支援理論の認識を高めるための、情報化社会に適合した研修プログラム開発

インストラクショナルデザイン*に基づくプログラム開発の第一段階であるニーズ分析としてトータルパッケージ活用の実態と研修ニーズの把握を行った。

*) インストラクショナルデザインとは、教育工学の分野で使われている研修や授業などの教授システムのデザイン原理で、本研究ではanalyze/ design/ develop/ implement/ evaluateの5つの活動からなるADDIEモデルを参照した

(ガニエ, R. M., ウェイジャー, W. W., ゴラス, K. C., ケラー, J. M. (2007).『インストラクショナルデザインの原理』. 鈴木 克明, 岩崎 信 [監訳]. 北大路書房.)

2 方法

(1) 調査の対象及び実施時期



当機構が開発し販売を委託している
(株)エスコアールからMWS及びM-メモリー
ノートを既に購入している機関を
対象にアンケート調査を実施した。

対象機関	実施件数	実施時期	方法
地域障害者職業センター	52箇所	R1年8月～9月	メール送信
機構以外の機関	697箇所	R1年12月～R2年1月	紙筆調査 郵送

(2) 質問項目

機関の 基本属性

- 根拠法による機関種・職員総数
- 昨年度の利用者数
- 支援サービスの内容・障害別利用者の対応状況

実施業務内容

- 支援業務の実施頻度と利用したツール・方法

TPツール

- 認知度
- 利用頻度
- 改善の要望

TP利用するうえでの工夫留意点(自由記述)

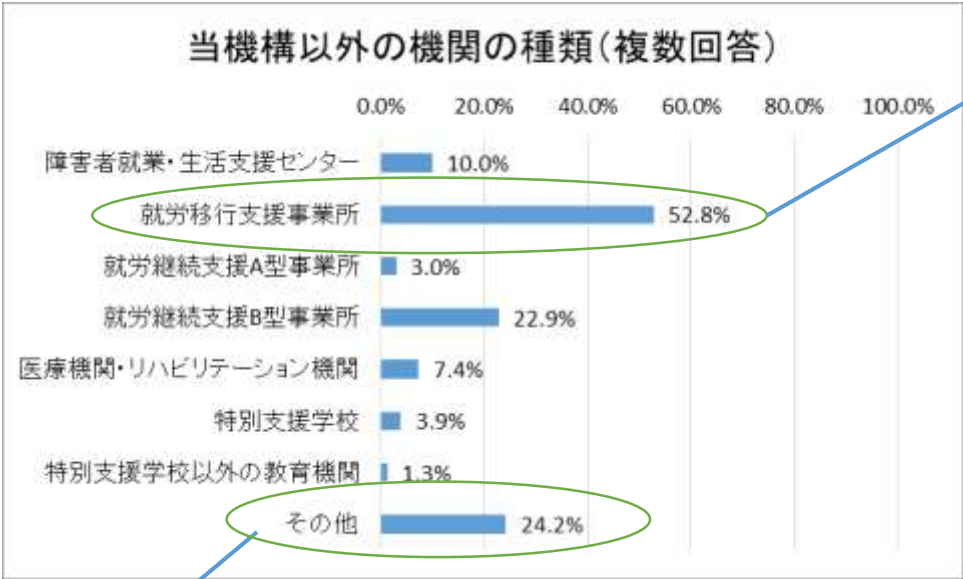
研究担当者からの問い合わせ内容への対応可能性

(3) 回答状況

地域障害者職業センターから**40**件(回収率;76.9%)
当機構以外の機関から**231**件(回収率;33.1%)

3 結果

(1) 調査対象機関の属性



就労移行支援事業所 施設形態	
単体	77
就労継続支援B型	27
就労定着支援事業	4
自立訓練・生活介護	4
就労継続支援A型+就労継続支援B型	3
就労継続支援B型+就労定着支援事業	2
就業・生活支援センター+就労継続支援B型	1
就労継続支援A型	1
就労継続支援B型+医療リハビリ	1
医療リハビリ	1
就労継続支援B型+自立訓練	1
計	122

その他再分類	複数回答	単独回答
地方自治体の相談支援機関	16	15
能開校、委託訓練、技術専門学校	9	9
定着支援事業所	8	1
自立訓練事業所	8	4
発達障害者支援センター、発達障害に特化した委託訓練	7	7
地域活動支援センター	3	1
民間企業	1	1
企業の雇用支援	1	1
生活困窮者自立支援法における就労準備支援事業	1	1
福祉型障害児入所施設	1	1
不明	1	1
計	56	42

当機構以外の機関で回答のあった231件のうち122件(52.8%)が就労移行支援事業所で、そのうち単体施設が77件、多機能が42件、多機能のうち最も多いものが就労継続支援事業所B型との併設で27件、また新規に設置が制度化された定着支援事業所との併設も4件あった。

(2) 支援業務の実施頻度

支援業務実施頻度の平均								
		地域センター			当構以外の機関			Mann-Whitney
		有効回答数	平均値	SD	有効回答数	平均値	SD	
支援業務の理解対象者による	ア) 作業遂行力の把握	40	4.00	0.00	224	3.56	0.78	**
	イ) 障害特性の把握	40	4.00	0.00	223	3.52	0.79	**
	ウ) 補完方法等の把握	40	3.93	0.26	220	3.38	0.90	**
	エ) 興味・関心の把握	40	3.93	0.26	219	3.27	0.92	**
	オ) 対処方法の把握	40	3.90	0.30	220	3.18	0.94	**
自己理解の対象者の	カ) 作業遂行力の理解	40	3.88	0.40	223	3.30	0.90	**
	キ) 障害特性の理解	40	3.93	0.26	220	3.13	1.01	**
	ク) 補完方法等の理解	40	3.80	0.51	218	3.13	1.01	**
	ケ) 興味・関心の理解	40	3.80	0.40	221	3.01	1.00	**
	コ) 対処方法の理解	40	3.78	0.47	217	2.94	1.02	**
学習者としてのマセナルシフト	サ) 障害受容促進	40	3.50	0.81	216	2.93	1.04	**
	シ) スケジュール管理	40	3.13	0.93	217	2.82	1.07	
	ス) 補完方法の獲得	40	3.38	0.83	216	3.00	1.02	*
	セ) 対処方法の獲得	40	3.68	0.57	215	2.97	1.00	**
支援連携	ソ) 情報共有	40	3.73	0.45	219	3.14	0.93	**

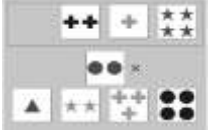
得点レンジ 4 - 頻繁に 3 - 時々 2 - まれに 1 - しなかった
Mann-WhitneyのU検定 * p < 0.05 ** p < 0.01

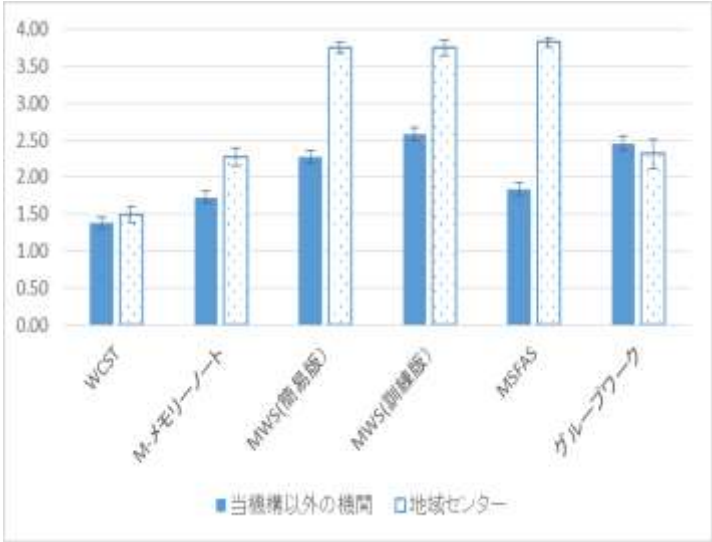
の共通課題対処の参考例

『認知機能障害に焦点を当てた心理学的介入方法が うつ病の再発予防に及ぼす効果に関する展望』行動療法研究, 37(1), 33-45, 2011

成人期ADHD治療のバリエーション：成人期ADHD者の時間管理スキルに焦点を当てた集団認知行動療法 (第59回日本児童青年精神医学会総会特集

(3) トータルパッケージのツール・技法の認知度と活用頻度

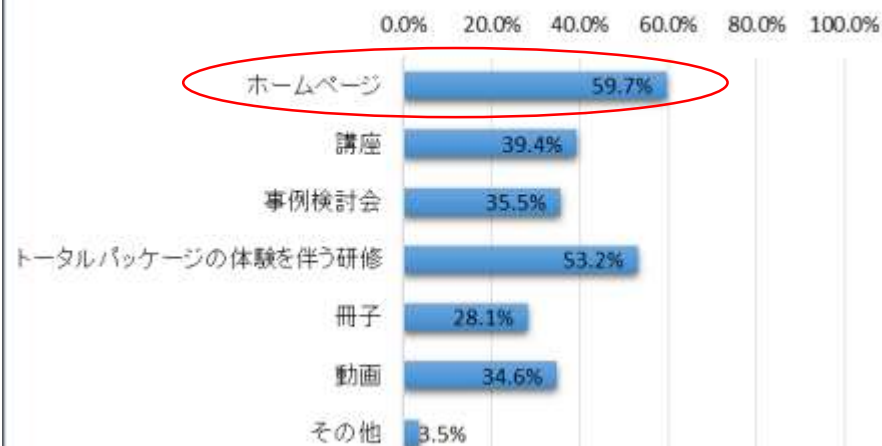
	名称	機能説明	画像
1	WCST(ウィスコンシン・カードソーティングテスト)	遂行機能障害の有無を推定するための検査。	
2	M-メモリーノート	記憶障害のある対象者に有効な補完手段であるメモリーノートを、職場に合わせた形で進歩させたもの。	
3	ワークサンプル幕張版 (MWS)	簡易版 13の作業課題が体験できる。簡易版は比較的短時間で実施が可能。	
4		訓練版 13の作業課題が体験できる。訓練版は各作業に難易度別の段階を設け、訓練に活用できるようボリュームを大きくしている。	
5	MSFAS(幕張ストレス・疲労アセスメントシート)	ストレスや疲労に関する情報を整理し、それを乗り越えていくための対処行動を計画的に学習する方法を検討するシート。	
6	グループワーク	トータルパッケージを実施する期間に行われる、朝・夕のミーティングを中心とした小集団での活動。	



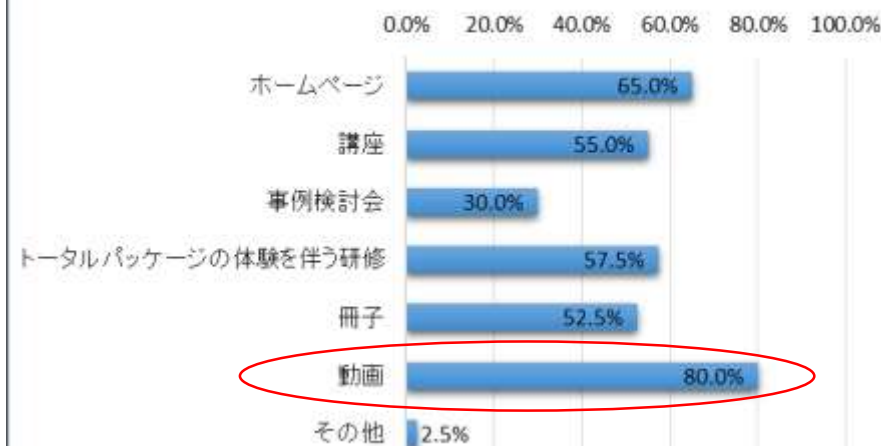
活用頻度を間隔尺度とみなして「頻繁に」を4点、「時々」を3点、「まれに」を2点、「しなかった」を1点に換算して平均値を算出し、地域センターと当機構以外の機関で比較した。
Mann-WhitneyのU検定を行ったところ、グループワーク(p=0.43)を除くすべての項目で地域センターの方が活用頻度が高いことを示す有意な差が見られた。

(4) 情報提供についての希望

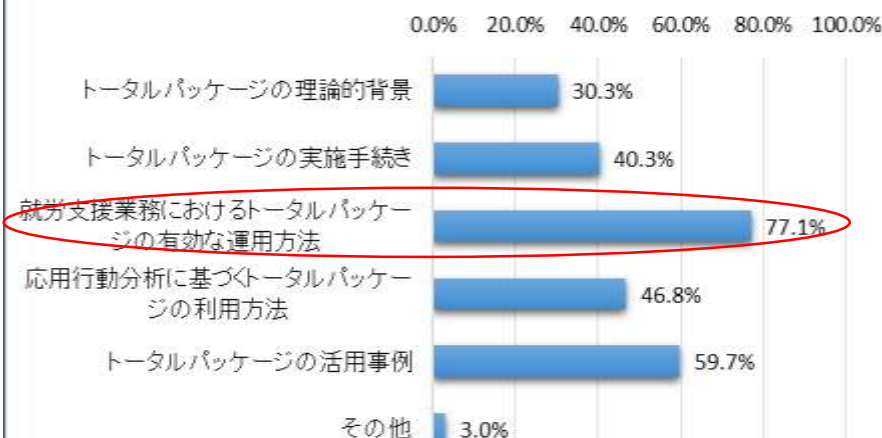
機構外のTPの情報提供希望



地域センターのTP情報提供希望



機構外のTP情報提供希望の内容



地域センターのTP情報提供希望の内容



4 考察と今後の展望

- 当機構以外の機関では平均的にトータルパッケージの活用実績があまり高くない実態が明らかになった。
- 職リハツールが障害の多様化に対応し有効に機能するためには、実施率の低い「障害受容の促進」や「対処方法の把握、獲得」といった支援課題について、当機構以外の機関に知識を普及する必要がある。
- 職業評価の場面に限らず、一定期間を要しての実践的体験と振り返りを提供する場の設定つまり、グループワークやそこでの課題整理シート；MSFASやM-メモリーノートの総合的な活用が重要となる。

トータルパッケージ活用機関の対象範囲が、トータルパッケージ開発当初の想定から大幅に拡大してきている今日、就労支援技法の十分な伝達普及のためには、基礎理論（応用行動分析学）のより具体的でわかりやすい解説と、その体系下で構成された各ツールを用いた一連の支援技法について、動画などを活用した教材の開発が求められている。